八幡工高新聞

発行者：滋賀県立
八幡工業高校新聞部

インターハイ2026
カウントダウンイベント

2026インターハイ応援祭 ～びわ湖から全国へ～

11月16日に、イオンモール草津で、2026年の近畿総体に向けて300日前のカウントダウンイベントが開催された。イベントでは県内５校の高校によって製作されたカウントダウンボードが披露された。そのうちの一つ、八幡工業高校のカウントダウンボードの見てもらいたいポイントやボードに込めた思いを紹介する。

→除幕式でのインタビューの様子

←左から瀬田工、彦工
→他校が製作したボード

←左から信楽、安曇川高校

カウントダウンボード製作について

イベントではカウントダウンボードの除幕式があり、各校のカウントダウンボード披露の後、生徒へのインタビューがあった。

八工へのカウントダウンボードについての質問「見てもらいたいポイントやボードに込めた思いは？」に対して「カウントダウンボードの中にはチャッフィーとキャッフィーという琵琶湖に生息する『ビワコオオナマズ』をモチーフにした滋賀県のイメージキャラクターがいて、このキャラクターを見て小さい子供たちに将来インターハイに興味を持ってもらい、活躍する選手になってほしいという思いを込めて作った」と語った。このキャッフィーたちには、タスキがつけられており、このタスキには今年度開催された滋賀国スポからインターハイにつなげるという思いも込められているそうだ。次の質問「カウントボードをつくってよかったところは？」に対しては「普段から学科をこえた交流があまりない中で今回電気科と機械科での合同作業となった。作品を作るにあたって普段お互いが知らない知識を使って最大限によりよいものを作ることができてよかった」と答えた。最後に「大変だったところや苦労したポイントは？」と聞かれると「計画的に作業が進まなかったり、カウントダウンボードに3桁の数字を表示させるのが苦労した」とのこと。また、モニターの映像が綺麗に映らなかったり少ないスペースでの配線の取り回しなどが難しかったポイントだそうだ。このボードは課題研究で製作、機械科と電気科の合同作業で約1か月以上かけて、課題研究の日に居残りもしながら仕上げたそうだ。　今回のカウントダウンボードは、草津イオンモールで見ることができる。

（田・重）

↑八工のカウントダウンボード

高校生活動推進委員

今回のカウントダウンイベントは、高校生活動推進委員によって企画・運営されたものだ。「高校生活動」とは、高校生最大のスポーツの祭典であるインターハイの成功に向けて、開催地の高校生が企画・準備・運営に創意工夫を持って取り組むもの。「滋賀県高校生活動推進委員会」は県内高校生が主体となって「近畿大会（インターハイ）」を盛り上げるため、式典・映像班、広報班、おもてなし班などに分かれ、カウントダウンイベント開催などのPR活動を実施している。2025年度も高校1年生を対象に委員を募集した。

「夢へ躍進　青春の夏　近畿総体2026」では、競技に出場「する」高校生、「みる」高校生のみならず、スポーツを「ささえる」立場から、多くの高校生が主体的に大会の準備・運営に携わる。このことにより、様々な交流を通じて豊かな人間関係を築き、多くの感動や達成感を味わうことができる大会を目指している。（田・重）

↑推進委員長
加藤妃菜さん

高校生活動推進委員 委員長
滋賀県立石部高等学校2年　加藤 妃菜さん

加藤妃菜さんは滋賀県高校生活動推進委員長を務める人だ。石部高校の先生に声をかけられたことをきっかけに高校生活動推進委員に参加したそうだ。推進委員の活動の中で広島県のカウントダウンイベントの視察に行ったときに「インターハイってすごい」と感じ、「私も色んな人の心を動かしたい」と思い、委員長になったそうだ。「みんなの記憶に残るものだから、観客にも実行委員にも、すごいって思えるイベントにしたい」と語った。滋賀のインターハイの開会式を広島県のものよりグレードアップし、「あ～すごい！」となるものにしようとしている。そして、高校のインターハイに参加した人の一生の思い出にしたいという。「今は情報時代。SNSに力を入れて、メディアやラジオでも伝えていくので、インターハイに興味を持って欲しい」と話した。